

1 当該学年・学期等における探究課題 《地域に学ぶ》

2 単元名 『ふるさとに関わろう』 (全36時間=実施時期:5月~12月)

3 単元のねらい *本単元で特に身に付けさせたいと考えている資質・能力と、それを身に付けさせるための仕掛け(主な素材・活動等)を明確に

井原市/芳井町の産業、特産品、偉人、自然などについて調べることで、自分たちが住んでいる地域に興味をもつとともに、調べ学習を通して地域の抱える課題を見出す。

4 主な活動とふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと(こと)」との出逢い・関わりの仕掛け、引き出したい子どもの姿

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		井原市・芳井町について知る W&L交流会(井原“志”民力交流会)	井原市・芳井町に関わる人から直接話を聞く 桜溪訪問・ 市内中1・高1・地域の人へのアンケート	出会った人との話を、整理し、郷土の魅力进行分析する。	地域についての情報をまとめ、発表する。
引き出したい姿	いばら愛 (郷土愛と当事者性)	当事者性を持って、地域から学ぼうとすることができる。	地域の大人の想いに触れることで、郷土愛をもつことができる。		井原市・芳井町の良さに気づくことができる。
	やり抜く力 (忍耐と向上心)			地域について調べたことを、発信するために粘り強く情報を整理分析することができる。	
	まき込む力 (発信と協働)		企業の方や生産者の方の地域貢献や地場産業への想いを知ることができる。 中高生・地域の人へのアンケートを通して、井原市の情報を集めることができる。	保護者や地域の方に、パンフレットの見本を見ていただき、改善点などのアドバイスをいただくことができる。	地域学習に関わってくれた大人へ発信することで、自分たちの学びを地域との協働活動にすることができる。
仕掛け・工夫	もの		桜溪塾への訪問を通して、昔から受け継がれてきたものに触れる。	保護者や地域の方に、パンフレットの見本を見ていただき、改善点などのアドバイスをいただく。	
	ひと	2年生の地域学習への取り組みを聞き、学習の流れを知る。 地域の大人との出会いから、地域を知るための課題を考える。	井原の企業の方、生産者の方との出会いを通して、地域の大人の想いを知る。 中高生・地域の人へのアンケートで、井原への想いに気付く。		
	しごと(こと)		地域にある仕事に出会う。		
アウトプットの工夫		自分の学びをクラスで発表→学びに関わってくれた大人へ発信→保護者へ発信と対象を変えながら発信の機会を複数回設定することで、聞き手を意識した発表を行うことができる。			

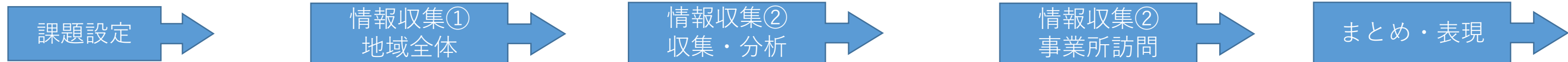
5 他教科・領域、学校行事等との関連

桜溪訪問
W&L交流会

6 他学年、他校(園)種、外部団体との連携・接続・交流

地場産業の企業や特産品の生産者。
3年次の課題解決学習
W&L職場体験

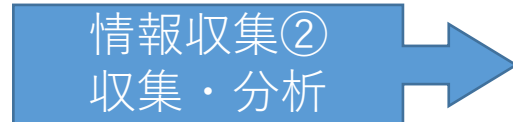
◆単元のねらい「井原市／芳井町の産業、特産品、偉人、自然などについて調べることで、自分たちが住んでいる地域に興味をもつとともに、調べ学習を通して地域の抱える課題を見出す。」



2年生が行った地域学習の内容を聞く。
 ・どのような学習をしていくのかを知ることができた。



デニム講座で、地域産業のデニムについて知ることができた。



市内中1・高1・地域の方にアンケートをとる。
 ・芳井以外の地域の良さや歴史に目を向け、井原市全体をふるさとと考えることができた。



パンフレットの中心となる、事業所に話を聞きに行く。
 ・自分たちの目で見て、直接話を聞くことで、掲載する情報を深めることができた。
 ・おとながもっている井原市への想いを知ることができた。



パンフレットの作成。
 ・グループリーダーで方向性を確認することで、各グループでのまとめをスムーズに行うことができた。
 ・パンフレット全体を指揮するグループが、各グループに指示を出すことができた。

自分たちが井原市について「知っていること」「知らないこと」を整理する。



桜溪塾・芳井民俗資料館で、地域の偉人について知ることができた。



地域のおとなとの出会い。
 ・井原“志”民力交流会として、井原市の現状や歴史、伝統芸能など、多方面の方から話を聞き、井原市の現状を知ることができた。



◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

- 地域学習のゴールを「自作パンフレットで魅力発信」とすることや自分たちの想いを込めたプロジェクト名をつけることなど、最初から生徒主体で行った結果、最後まで、生徒がアイデアを出し、自分たちで話し合いを進めながら、学習を進めることができた。
- 成果物を残すことができたことで、生徒は高い達成感をもつことができた。
- △生徒主体で学習を進めたことで、どう学習を進めていくか迷走してしまうときがあった。
- ☆来年度も継続して行いたい、そのうえで、内容をどう改善していくか考える必要がある。